

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2023 年

No. 143

2023年2月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2023 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

東北社会学研究会シンポジウム報告 1
いつきの“ヒューマン・ピーニング”^{②③} 7
多様な性のゆくえ^{⑦⑩} 8

今月のブックガイド 9
JASEインフォメーション 10

東北社会学研究会シンポジウム報告 「『青少年の性行動全国調査』 の軌跡と展開」を終えて

武蔵大学教授 林 雄亮

はじめに

2022年12月3日、東北社会学研究会の年次大会では、「『青少年の性行動全国調査』の軌跡と展開」と題するシンポジウムが開催された。東北社会学研究会とは、「研究会」と名は付くものの社会学分野の学術団体であり、東北大学文学部社会学研究室を中心に運営され、1950年に活動が始まって以来、70年以上の歴史を持っている。

今回、東北社会学研究会のシンポジウムで本企画が実施されたのは、当研究会やその運営の基盤となっている東北大学文学部と、日本性教育協会が実施している「青少年の性行動全国調査」(以下では性行動調査と略す)とが長い間、密接な関係を持っていたことによる。特に2008年度まで東北大学文学部行動科学研究室に所属されていた原純輔先生、今回のシンポジウム

で司会を務めてくださった東北大学文学部社会学研究室出身の片瀬一男先生(東北学院大学)は、数十年にわたり性行動調査の企画・実施に携わってこられ、同時に当研究会の会員でもある。そして、その間に原先生の指導院生として文学部行動科学研究室に所属した筆者やその同級生、後輩たち、文学部のすぐ隣の教育学部に所属する大学院生や学部生たちが性行動調査の調査員や調査データの作成に協力してきた。

2011年に実施された第7回性行動調査以降は調査の拠点を東京に移すとともに、調査委員の世代交替も進んだが、現在も当研究会と性行動調査は緩やかに関係を保ち続けている。本シンポジウムで報告者として登壇され、第8回、第9回性行動調査の調査委員会委員長も務められている石川由香里氏(立正大学)は前述の原先生の一番弟子的存在、同様に登壇者として研究内容を報告された俣野美咲氏(東京大学)は筆者が指導してきた元学生であるから、研究者の世代として

は3世代にまたがって性行動調査を担ってきたことにもなる。また今回のシンポジウムでコメンテーターをお願いした三輪哲氏（東京大学）も文学部行動科学研究室における筆者の先輩であり、性行動調査に直接携わられたことはないが、原先生の指導を受けたいわば兄弟子である。

このように、長い間、東北大学文学部を中心とする研究者ネットワークとともに歩んできた性行動調査は、第1回調査が1974年に実施されてから2023年でちょうど50年の歴史をもつことになる。そして2023年度には第9回調査も予定されており、この辺りでこれまでの性行動調査研究の振り返りと今後の展開について議論する機会を設けてみてはいかがかという事で本シンポジウムが企画された。

本シンポジウムでは、まず司会の片瀬一男先生より性行動調査の歴史や東北社会学研究会との関係について触れられた後、筆者、石川由香里氏、俣野美咲氏の順で以下の報告を行った。その後、指定コメンテーターとして三輪哲氏から性行動調査研究全般とそれぞれの報告についてコメントしてもらった。

以下ではそれぞれの報告内容の要約を記す（なお、掲載グラフは、第8回調査結果を基に本シンポジウム

のために作成された）。

第1報告（林雄亮）

青少年の性行動全国調査からみる若者の性の変容

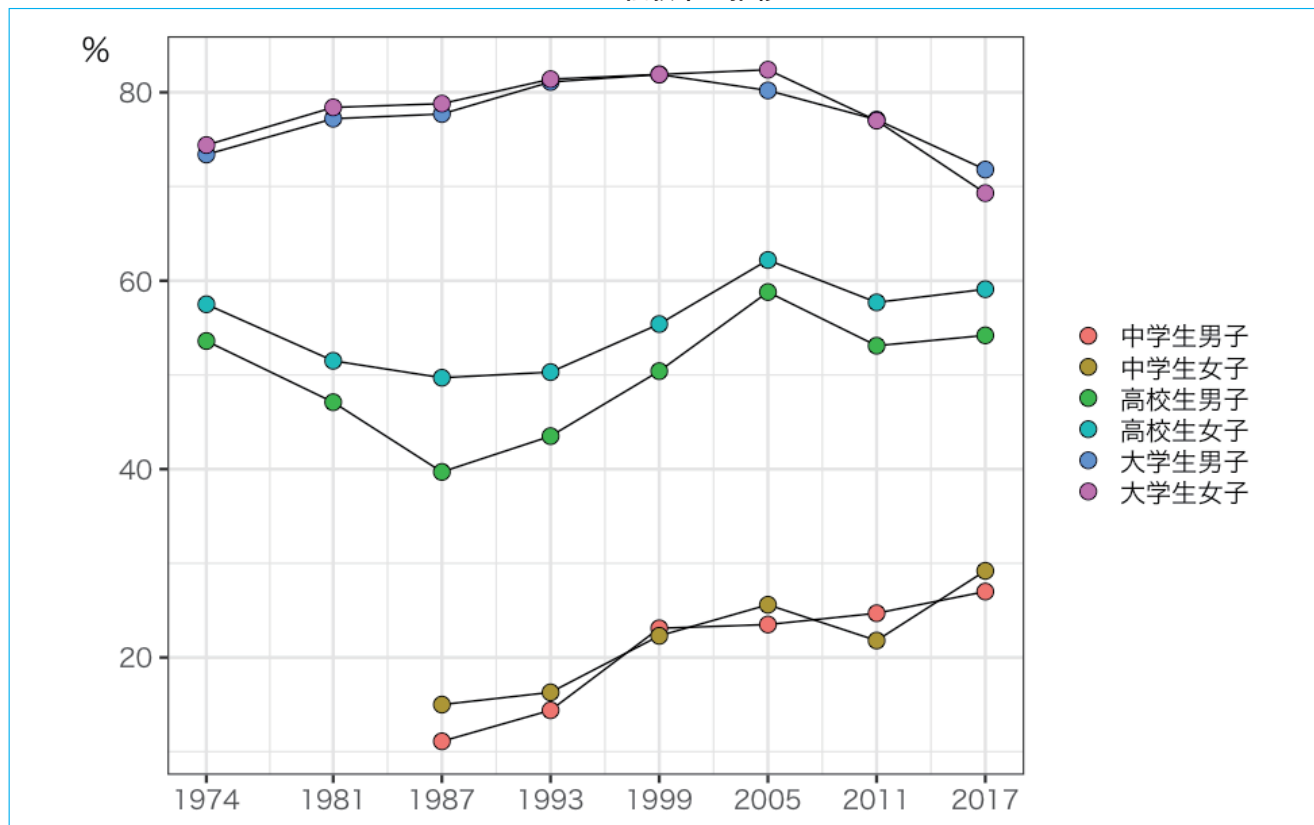
第1報告は筆者による「青少年の性行動全国調査からみる若者の性の変容」である。

はじめに性行動調査の歴史的背景、調査設計、各回のサンプルサイズ、これまでの成果本について説明を行った。次に、各回の調査結果からみた青少年の性行動・性意識の変容を概観した。デート経験、キス経験、性交経験、性的関心の経験について、調査時点、学校段階、性別ごとに時系列で経験率を測定した。それらの変化の概要は以下のとおりである。

第1回調査から第2回調査にかけて性行動の経験率が上昇、第3回調査にかけては経験率が低下していた。第4回調査では大学生、高校生の特に女子の性行動経験率が上昇し、男女差の縮小が始まった。

第5・6回調査では、青少年層全体で性行動が活発化し、性行動の「日常化」「早期化」「男女差の消滅」と呼ばれる現象が起きた。第7回調査では、性行動の

デート経験率の推移



不活発化と分極化が見られ始め、主要な性行動（デート・キス・性交）の経験率が低下した。また女子において活発層と不活発層への分極化がみられるのも特徴であった。さらに性的関心（の経験）はないが性交経験がある者が増加するという新たな現象も確認され始めた。

直近の第8回調査では、全体的な性行動の消極化と一部の層における性行動の低年齢化が進んでいた。性行動の経験率は20～30年前の水準にまで低下し、性的関心をもつ年齢は、男女ともに遅れが生じていた。しかしその一方で、2000年代生まれ（特に女子）の10代前半での性行動経験率が高まっていた。また、性行動・性意識における男女差が拡大しており、性行動の発達プロセスの男女差は新しい世代ほど大きいことが明らかになった。特に2000年代生まれの女子は、男子よりも早く性行動を経験する傾向が強く、性的関心の経験は新しい世代ほど男女差が大きい。

性行動調査の時系列的分析により基本的な変化を確認した後、性行動調査研究の歴史と展開について議論した。性行動調査は、調査開始当初から一次資料的価値に重点が置かれていたが、近年は定点観測だけでなくメカニズムに着目した研究も重視されるようになっている。たとえば性行動が起こるタイミングにおける家庭環境の影響、性的関心の発生メカニズム、避妊行動の規定因、デートDVが発生しやすい環境、性教育がジェンダー規範・性別役割分業意識に与える影響などが考察されている。

加えて近年は、性行動調査研究が隣接領域との接合にも意識的に取り組んでいることを紹介した。たとえば性行動調査にみる青少年の交際状況の時代変化は未婚化・晩婚化現象を扱う社会学の視点とも共通し、学習指導要領の変遷と性教育のあり方や、学校での性教育実施者へのインタビュー調査、家庭での性教育の実施状況の把握は教育学との連携を意識したものである。思春期学、医学、看護学などの分野にも展開できる知見も多く、今後の展開が期待できる。

今後、性行動調査研究が新たに取り組んでいくテーマとしては、以下のことが挙げられる。

第1に国際比較研究であり、特に比較的類似した文化的背景の東アジア社会を対象とした研究が必要である。第2に性教育の「効果」をどう測るかという問題であり、統計学における因果推論的アプローチが有効

であると考えられる。第3に家庭での性教育と親子の相互作用についての調査研究であり、家庭での性教育の実施状況や親の社会的経済的地位・教育意識と子どもの性行動・性意識および親子関係などを明らかにする必要がある。

第2報告（石川由香里）

青少年のジェンダー観とセクシュアリティの変容

石川由香里氏による第2報告は、「青少年のジェンダー観とセクシュアリティの変容」である。

はじめに青少年のジェンダー観の時代変化が確認された。「男性では外で働き、女性は家庭を守るべきである」という意見に賛成する者の割合を見ると、1993年に実施された第4回性行動調査から1999年の第5回調査にかけて賛成比率は全体的に大きく低下し、その後2011年の第7回調査にかけてやや揺り戻しが見られるものの、最新の2017年の第8回調査ではさらに低下の傾向が見られた。また仲の良い異性の友人が複数いる者の割合も、全体的には上昇傾向にあることが示された。さらにこの間、「男性の方が女性よりも性欲が強い」と思う者の割合も緩やかに低下している。

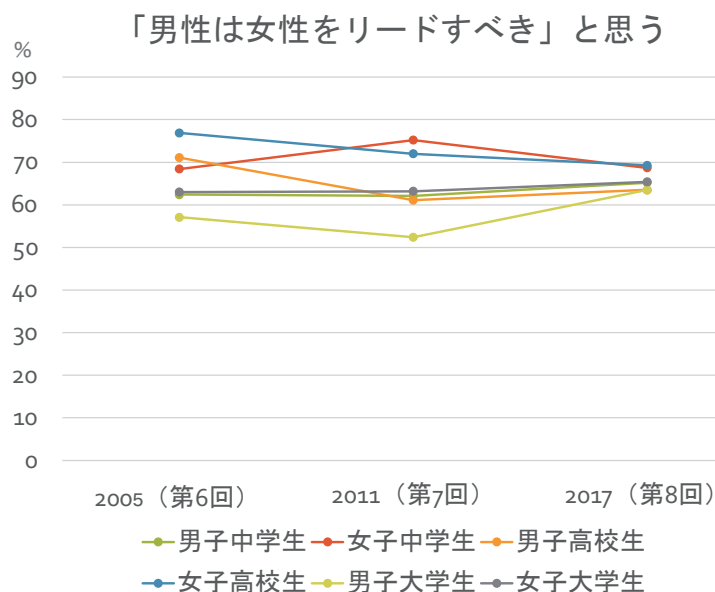
その一方で、「男性は女性をリードすべき」と思う者の割合は2005年の第6回調査以降大きな変化はなく、男性リード規範が根強いことが示された。初めての性交経験について理由をたずねた質問において、「愛していたから」と回答する者の割合は低下しているものの、「好きだったから」という回答は極めて高く安定的であり、ここから青少年の愛情規範も大きな変化はなかったことがわかる。「付き合っている人以外との性交」を好ましくないと考える者の割合や、現在交際相手がおらず性交相手が1人のみである者の割合も高いレベルで安定しており、このようなモノガミー規範も維持されているという。

次に、この男性リード規範、愛情規範、モノガミー規範を規定する要因はどのようなものかを明らかにするため、出身背景、文化資本、友人関係、性教育で習ったこと、友人との性についての会話、性交に関する情報源、性被害の経験の影響を多変量解析によって検証がなされた。

根強い性別規範

男性がリードすべきという意識

交際は男性から申し込む形に
もっていく（大森2022）



男性リード規範の形成において、正の影響をもたらす（男性リード規範を支持する）要因としてまず挙げられるのは友人関係である。友人関係が豊富であるほど男性リード規範に肯定的であり、この規範が友人関係の中で醸成される可能性が示唆される。その他としてデートDVの経験、男子のみでアダルトビデオを性交の情報源としていることが挙げられる。反対に男性リード規範に負の影響をもたらす（男性リード規範を否定する）要因としては、女子において年齢が高いこと、文化資本が高いことが挙げられる。

愛情のない性交を否定的に捉えているという愛情規範については、それを肯定する方向に働く（愛情のない性交には否定的になりやすい）要因として、女子では同性の友人の多さ、男子では学校性教育が挙げられる。その一方で、性交の情報源がアダルトビデオやポルノ雑誌であること、性被害の経験があることは男女ともに愛情規範を否定する方向に寄与し、男子ではさらに友人との性の会話頻度が高いこと、女子では文化資本や性交の情報源としてのマンガの影響が見られる。

付き合っている人以外との性交を否定するというモノガミー規範については、女子において性被害の経験がないことが規範を肯定的に捉えることに影響している。しかし文化資本や同性の友人の豊富さ、友人との性の話題の頻度、性交の情報源がアダルトビデオであ

ることはモノガミー規範に否定的になることを促すことが示された。

報告の最後にまとめとして、青少年の中で同性、異性の友人数が増加している一方、性についての話題は少なくなっていること、視覚メディアの影響がますます強くなっていること、学校性教育が広く実施され、男女平等についての考えが広まってきたことが指摘された。青少年のセクシュアリティの今後としては、男性リード規範が否定される可能性は低いこと、愛情規範は維持されるが、モノガミー規範については緩和される可能性があることが示された。

第3報告（俣野美咲）

青少年の性行動と家庭環境・性教育

第3報告は俣野美咲氏による「青少年の性行動と家庭環境・性教育」である。ここでは大きく2つの分析が行われた。

1つ目は青少年の性行動に対して家庭環境が及ぼす影響に着目したものであり、青少年のデート経験、キス経験、性交経験に対して家族構造や親の社会経済的地位、家庭での居住環境、親子関係が及ぼす影響について考察がなされた。

2つ目は家庭での性教育の実践に家庭環境が及ぼす影響についてであり、これは筆者らが中心となって実

施した「2021 年全国おうち性教育実態調査」が用いられた。

はじめに、青少年の性行動に対する家庭環境の影響について、2017 年に実施された第 8 回性行動調査の分析が学校段階別に行われた。主要な性行動としてデート経験、キス経験、性交経験を取り上げ、家庭環境を表す要因としては、①ひとり親世帯かどうか、異性／同性の年上きょうだいの有無という家族構造、②個室を保有しているか否かという居住環境、③親の学歴と母親が専業主婦かどうかという親の社会階層や社会経済的地位、④親との会話頻度、家庭のイメージ、家族から性情報を得ているかという親子関係に焦点が置かれた。

多変量解析により、次のことが明らかになった。

第 1 に、ひとり親世帯であることや個室の保有が性行動を促進するという影響は中学生・高校生において顕著にみられる。そのメカニズムとしては、親の監視の目がないプライベートな時間・空間を持つことで性行動を経験しやすいこと、大人の管理が行き届かない環境にある子どもほど、性に関する適切な知識が不十分なまま、リスクの高い性行動に晒されやすいことが示唆された。

第 2 に、家族とのコミュニケーションが性行動の経験に影響を及ぼす。親との会話頻度が高いと大学生において性行動が抑制される一方、中学生や高校生では家族から性に関する情報を得ていると性行動が促進される傾向があることがわかった。また家族の親密度だけでなく、家庭では避けられがちな性に関する話題をできる関係にあるかどうかが重要な可能性もある。さらに、中学生・高校生に比べて日常生活の自律性の高い大学生においても家庭環境の影響がみられた。

次に、家庭における性教育が家庭環境によっていかに異なるのかについて考察がなされた。

ここで用いられたのは「2021 年全国おうち性教育実態調査」であり、この調査は 2021 年 8 月に日本国内に居住する 1971 年から 2000 年生まれの子どものいる女性を対象に実施されたものである。調査委託先の調査モニターに登録している個人 2969 名から回答を得たのち、回答時間が極端に短いケース、回答内容が明らかに不適と判断されるケースを除外し、最終的な有効票は 2785 名であった。

調査内容は、家庭での長子と末子への性教育の実施

状況、性教育に関する意識に加え、回答者や配偶者、子どもの基本属性などであり、この調査データを用いて長子の年齢が 18 歳以下の母親を対象に、家庭での性教育の実践に家庭環境が及ぼす影響について分析を行った。

多変量解析の結果、第 1 に、家庭での性教育の実践やそれに対する考え方は親の社会階層により異なることが明らかとなった。父母の職業、母親の学歴、世帯収入が家庭での性教育の実践や、性教育を行うべき場（学校か、家庭か、学校と家庭の両方か）に対する意見が異なるが、影響の現れ方は一様ではなかった。

第 2 に、子どもへの教育期待の高い母親は、家庭での性教育をより実践しており、性教育を家庭と学校の両者が担うべきだと考える傾向にあった。ただし、教育期待の高い母親は「性の多様性」「ジェンダー平等」などについて教えている割合が高い一方で、「避妊の方法」「デート DV」などのより実践的な内容についてはむしろ教育への期待が低い母親ほど教えている割合が高かった。

第 3 に、配偶者との連携が取れない場合、母親は子どもの性に関して孤立しやすい傾向にあった。ひとり親世帯の母親や夫婦関係に不満な母親は配偶者のサポートが得られないため、性教育をより行っている傾向にあるが、それゆえ性に関して困った経験もありやすく、誰にも相談できない状況に陥りやすいものと考えられる。

コメント（三輪哲）

性行動調査研究の意義

3 つの報告が行われた後、コメンテーターの三輪哲氏から性行動調査研究およびそれぞれの報告についてコメントがなされた。ここでは性行動調査研究の意義について触れられた部分をまとめる。

三輪氏によれば、性行動調査研究の第 1 の意義は希少性である。同様のテーマで全国規模で実施されている社会調査は国内では皆無であり、質の高い調査データの収集に対して高い評価がなされた。

第 2 に長期時系列の調査であることである。前述のように約 50 年の歴史をもつ調査研究であることは、日本人の青少年の性行動・性意識がいかに変容してきたかを知ることができる唯一の手段である。

第3に中学、高校、大学という3つの学校段階を調査対象にしている点であり、ちょうど6年間隔で実施される調査は、前回調査時に中学生だった生徒たちが6年後には大学生になっているという同一コーホートの比較分析を可能にしている点で優れた設計であるという。

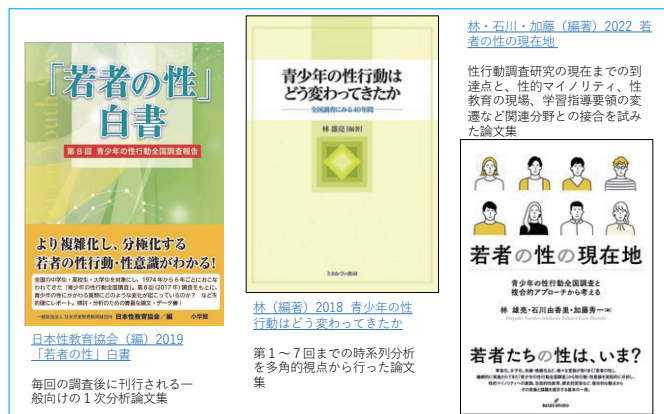
第4に調査データの公開性であり、各回の調査データは東京大学社会科学研究所社会調査・データアーカイブ研究センターのSSJDAに寄託し、研究者や学生であれば基本的に自由にデータを利用できる環境となっている。

おわりに

コメンテーターからのコメントの後、各報告者からのリプライを行ったところで残念ながら予定の終了時刻となった。オンラインで開催された本シンポジウムには延べおよそ30名が出席され、ふだん交流のない方々からも質問やコメントが寄せられ、大変意義深い実りあるシンポジウムとなった。

なお、東北社会学会が刊行している雑誌『社会学研究』では、2023年度の特集として本シンポジウムの3つの報告をもとにした論文が所収される予定である。

これまでの成果書籍



【読者の皆様へのお願い】

記事にありますように、「青少年の性行動全国調査」は2023年度に第9回調査を実施予定です。できるだけ偏りのない調査設計とするため、全国のさまざまな地域、都市規模の地点から調査対象となる学校を選定する必要があります。

調査委員会では、少しでも多くの学校にて調査を実施できればと考えておりますので、もしご協力いただける中学校、高校、大学がありましたら、日本性教育協会事務局までご一報いただけますと幸いです。

★日本性教育協会事務局

Tel.03-6801-9307 メール info_jase@faje.or.jp

ホームページ <https://www.jase.faje.or.jp>

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】しばらくの間、月～金曜日 11:30～16:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

いつきの“ヒューマン・ビーイング”

人権について考える ②③

「本」のみなさんが語ること

土肥いつき

京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

前号には「リビングライブラリ」を通して伝えたいことを書きました。今号には、ひとりひとりの「本」のみなさんに伝えてほしいと思っていること、そして伝えてくださっていることを書くことにします。ただ、これまで来てくださったすべての「本」について書くわけにいかないので、3冊だけ紹介することにします。

ある人にどのようなライフストーリーを語ってもらうかは、同時に、その人の属性のどこに焦点を当てて依頼するかということでもあります。「本」のみなさんは、ひとりの中にさまざまな「当事者性」を持っておられます。例えば、虐待サバイバーのもぎさんは、同時にトランスジェンダーでもあります。わたしは友人のもぎさんに「今回はトランスジェンダーとしてではなく、虐待サバイバーとして話をしてほしい」と頼みました。もぎさんは快く引き受けてくれました。しかし、はじめてのリビングライブラリの日、もぎさんは5分話をしたところで固まってしまわれました。それでも「来年も来てほしい」ともぎさんに頼みました。なぜなら、きっとわたしの勤務校にもいるであろう虐待を受けている生徒に、もぎさんの言葉を通して自分が虐待を受けていることに気づいてほしかったからです。それから2年後、もぎさんの話を聞いたある生徒は、次のような感想文を書きました。

少し自分と重なる部分があって、自分の親は虐待を知らずのうちにしているのかなと思った。弟との差別も虐待になるのかなと思った。そうじゃなかったらいいな…。でも、もぎさんの話を聞いて、少し心の逃げ場所をつくれそうでよかった。

もぎさんは話の中で「シチューのコマーシャルが見られなかった」と語ってくれました。そんな日常の中にあった小さな傷が、きっとこの生徒に伝わったんだろうと思います。

「あなたはナニジンですか?」。答えるのがとても簡単に思えるこの質問の前で、もだえる人がいます。アメラジアン^(注1)のとーますさんもそんな人です。差別や人権はともすれば「不便さ」に着目して、その解決

をもって解消したと捉えられがちではないかと思います。日本語をしゃべり、日本の習慣を持ち、日本国籍を持っているハーフやクォーター^(注2)の人には、あたかもなんの不便もないように思われがちです。それどころか「ハーフがうらやましい」という無邪気な言葉をかけられずらします。しかし、とーますさんは自分とは何者かという問いに囚われながら生きておられます。そんなとーますさんの語りを通して、単純に「日本人／外国人」のふたつにわけてしまいがちな、この日本社会のありように気づいてくれたらと思っています。

人権学習の作文に「自分がなにをすればいいのかわからない」と書く生徒がいます。おそらくそれは、話はわかったけど、その話が自分の生活や行動、生き方とどう結びつくのかということに思いがいたらないからではないかと思います。どうすればいいか考えていたとき、防災教育の講演を聞く機会がありました。その中に「当事者は3種類いる。ひとつは被災者。もうひとつは災害ボランティア。もうひとつは被災者や災害ボランティアの話を聞いた人」という言葉がありました。その時「これだ」と思いました。イラク帰還兵のスピーキングツアーの通訳であるこぶちさんは、まさにそういう人です。だからこそ、あたかも当事者ではないように捉えられるこぶちさんに話をしてもらっています。こぶちさんの話を聞いた「わたし」もまた、その次の当事者になる。それが「なにをすればいいのかわからない」へのひとつの答えのかなと思います。

ある生徒から「1週間かけて10冊全部読みたい」と言われたことがあります。そんな人権学習ができるのは、「本」のみなさんとの出会いのおかげだなど、あらためて感じます。

リビングライブラリの話をする、「よくそれだけの人を集められるね」と感心されることがあります。でも、それはそんなに難しいことではありません。次号には、なぜリビングライブラリが可能となったのかを書きたいと思います。それは教員としてのわたしの原点について書くことにもなるだろうと思います。

(注1) アメリカ軍属とアジア人との間に生まれた子どもやその子孫。

(注2) とーますさんはアメラジアンが「混血児」と呼ばれ差別された歴史を踏まえて、自らのことを「混血」とあらわしています。また、ダブルやミックスルーツなどの表現もあります。

性と政治をめぐる因果

ロシアのプーチン大統領は昨年12月5日、LGBT 宣伝禁止法（同性愛宣伝禁止法の改正案）に署名した。日本国内ではあまり大きく報じられることはなかったようだが、軽視はできない動きである。ロシア国内では、新しい法律の成立により、LGBT 関連の情報を公共の場やオンライン、映画、書籍、広告などで拡散することが禁止されるようになった。

この法律に対しては、ロシア下院が10月27日に改正法案を可決した段階で、ヴォルカー・ターク国連人権高等弁務官とウィニー・ビヤニマ国連合同エイズ計画（UNAIDS）事務局長が強い懸念をいち早く表明し、法案の撤廃を求めている。

ターク人権高等弁務官の懸念は、ロシア下院の法案可決の翌10月28日、広報官による記者会見の中で次のように紹介されたという。

「修正法案は2013年に制定された法律の規制拡大をはかるものです。現行法自体が国連の人権専門家による広範な調査の結果、差別的で表現の自由を侵害し、ヘイトスピーチ、ヘイトクライム、児童虐待を含む迫害の増加につながると非難されてきました。法律の適用範囲を拡大し、成人を含むすべての人について、関連するすべての通信を全面的に禁止することになり、状況は一段と悪化します。修正提案ではトランスジェンダーの人たちも対象になります」

また、UNAIDSは法改正を「LGBTQ プロパガンダ法の延長」ととらえ、ビヤニマ事務局長が10月29日のプレス声明の中で「LGBTQの人たちの安全と福祉を損なうだけでなく、人びとの健康状態に深刻な影響を及ぼします。言論の自由を制限するなど懲罰的かつ抑圧的な法律が、HIV感染のリスクを高め、サービスへのアクセスを減らすことは、エビデンスとしてすでに明らかになっています」と述べた。

国連人権高等弁務官事務所の発表は「反LGBT法案（anti-LGBT bill）」、UNAIDSの声明は「LGBTQ プロパガンダ法（‘LGBTQ propaganda’ law）」という呼称を使っているが、どちらも同じ法律を指している。

残念ながらこうした懸念は、プーチン大統領にはまったく届かなかったようだ。人権高等弁務官のコメントに出てくる「2013年に制定された法律」については当コラムの第9回『隠されることで生まれる脆弱性』（2017年12月）でも取り上げたことがある。

2013年6月制定の同性愛宣伝禁止法は、未成年者の発達に及ぼす悪影響を防ぐという名目のもとに、あくまで同性愛を宣伝する行為を禁止する法律であり、同性愛者の存在そのものを否定しているわけではないと説明されていた。

だが、現実にはロシアのMSM（男性とセックスをする男性）向けのクリニックは次々に閉鎖に追い込まれ、多数の人がHIV感染の予防に必要な情報もケアも得られない状態に置かれていった。健康の権利をまもるという観点からも「同性愛を宣伝する行為」の禁止がもたらした社会的な影響は小さくない。

翌2014年にはソチ冬季五輪が開かれ、その閉幕直後にロシアのクリミア侵攻が開始されている。

同じ2014年の7月にはオーストラリアのメルボルンで第20回国際エイズ会議（AIDS2014）が開かれているが、その開幕3日前の7月17日、ウクライナ東部上空を飛行中のマレーシア航空17便が撃墜され、国際エイズ学会（IAS）のユップ・ランゲ元会長ら6人の会議参加予定者が亡くなっている。

性と政治をめぐる因果は「宣伝を禁止するだけ」の行為がいかに大きな影響をもたらすのかを示している。ロシアとウクライナに関する2013年以降の動きを振り返ると、現在の事態を予言するかのように暗示的である。しかも、今回の法改正では「未成年への教育的配慮」という枠が外れ、対象も拡大されている。

ロシアによる新たなウクライナ侵攻の開始から2月24日で1年が経過する。長期化は侵攻を選択したプーチン大統領にとっても大きな誤算だったに違いない。この時期に性的少数者への迫害（とあえて言いたい）を強める動きに出たのはどうしてなのか。そうした視点からもロシア国内の動きを注視する必要がある。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

主婦と資本主義

先日、岸田文雄首相が、産休・育休中の人々のリスクリング（学び直し）を「後押しする」と国会で答弁したことに批判が集まったが、育児や家事など家庭の中で行われる無賃金労働は、社会で賃金を得て働くことに比べて見下されがち、片手間に行っている取るに足らないことと扱われがちなのは今に始まったことではないだろう。

本書の著者チョン・アウン氏は、2人目の子どもを妊娠中にそれまで勤めていた会社を辞め専業主婦になる。家事に育児にと、むしろ会社員時代よりも忙しく身体を動かしているにもかかわらず、あちらこちらから投げかけられるのは「家で遊んでるんだって?」という言葉。さらには「夫が稼いでくれるお金で楽に暮らしているじゃないの!」という言葉。決して楽をしているわけではなく、子どもたちのために涙をのんで会社を辞め家族を支えているのに、なぜ育児や家事は労働と見なされないのか、なぜ主婦は社会的に見下されるのか、その答えを数々の書籍に求め、原因はお金、すなわち“資本主義”にある!と導き出すまでの過程をまとめたのが本書である。

本書で紹介されている本は、『資本論』カール・マルクス、『貨幣の哲学』ゲオルク・ジンメル、『見える胸』ナンシー・フォルバー、『キャリバンと魔女』シルヴィア・フェデリーチ、『フォビアフェミニズム』パク・カブン、『女ふたり、暮らしています。』キム・ハナ／ファン・ソヌなど、古典からエッセイまで幅広い15冊。それらの本のブックガイドとして読むこともできるだろうが（日本では翻訳されていない書籍も含まれるが）、本書の醍醐味はやはり、一人の主婦が書籍から学び考え、しなやかに理論武装していく成長の過程をつぶさに読めること、そして著者が本書でシ



主婦である私がマルクスの 「資本論」を読んだら 15冊から読み解く家事労働と 資本主義の過去・現在・未来

チョン・アウン著、生田美保翻訳

DU BOOKS

定価 2420 円（税込）

ェアしてくれる知識を読者も得ながらさまざまに思索できるところにあると思う。資本主義社会が家父長制を取り込んで女性のケア労働をいかに搾取しているのか、本書を読むだけで十分に理解できる。著者が暮らす韓国は日本よりも家父長制が根強く、本書は韓国社会で生活していることを前提に書かれているが、日本で暮らす私が読んでも違和感はほぼなかった。

著者は自身の考えとはまったく異なるアンチフェミニズムの本にも手を伸ばす。『消耗する男』ロイ・パウマイスター（未邦訳）を読んだ著者の気づきには、私もハッとさせられた。

——これまで私はジェンダーに関しては女性が書いた、女性のための、女性の立場から見た本しか読んでこなかったことに気づいた。（略）自分の中に自分と似たような人たちの考えだけを詰め込んできたので、単純なジャブにあっさりとやられてしまったのだ。（略）自分と考え方が違う人たちと対話をしたり、あるいはかれらの著作を読むと、自分と同じ意見をもった人たちと交流してお互いの考えを強化するときよりも、脳のいろいろな部分を使う。

昨今、行き過ぎたキャンセルカルチャーに疑問を呈す声も増えてきているように思うが、反対意見にも耳を傾け、一部には納得したり議論したりということ、私たちは怠っているのではないかと、本書のテーマとは少し異なるところにも思いが及んだりもした。

さて、エピローグで著者は、女性・自然・植民地を搾取してきたこれまでの資本主義体制が崩れてきていることを語る。著者が言うように、家事と育児が男女に均等に再分配され、社会が完全に新しいかたちとカラーで再編成されていくかどうかはまだわからないが、冒頭で書いた岸田首相の発言に女性だけではなく多くの男性も批判を寄せたことを考えれば、日本社会も少しずつ変化してきているのかもしれない。

（日本性科学連合事務局長 今福貴子）

UNESCOとの対話 セクシュアリティをハートで学ぶ

性教育の究極のゴールは世界中の
人が健康で幸せになること。

「自分の性」を自分のものにするために、

「みんなの性」をみんなで支えるために、

私たち一人ひとりにできることは何でしょうか。

学校が、コミュニティが、家庭ができることは何でしょうか。

「包括的なセクシュアリティ教育」を力強く推進する

ユネスコの性教育専門家 Jenelle Babb さんと

「人生をデザインするために性を学ぼう」と

訴えて活動する社会起業家の染矢 明日香さんの

講演をお届けします。

オンラインゲスト:

UNESCOの性教育専門家



Babb, Jenelle

ユネスコのアジア太平洋地域教育局(バンコク)を拠点に活動する健康とウェルビーイングのための教育に関する地域アドバイザー。ユネスコ本部(パリ)の健康教育課やカリブ海地域をカバーするユネスコのクラスターオフィス、ジャマイカの教育省などで、15年以上にわたってHIV予防教育、包括的セクシュアリティ教育、学校保健、若者の健康とウェルビーイングの分野で活動してきた。地域アドバイザーとしては、アジア太平洋地域における健康とウェルビーイングのための教育に関するユネスコの活動を主導し、安全でインクルーシブ(包括的)な学習環境下での変革的な教育を通して、健康なライフスタイルとジェンダー平等の実現に貢献するために、各国の教育省とそのパートナーに政策や規範に関するガイダンス、技術や能力開発のサポートを提供している。

スピーカー:

NPO 法人ビルコン理事長



染矢 明日香

自身の経験から日本の思いがけない妊娠・中絶の多さに問題意識を持ち、大学在学中より学生団体ビルコンを立ち上げ、性の健康の啓発活動を始め、2013年にNPO法人ビルコンを設立。自分事として性の健康を伝える若者ボランティアの育成をしながら、中学校、高校、大学等で300回以上、4万多名以上の対象者に性教育講演を実施。思春期からの正しい性知識の向上と対等なパートナーシップの意識醸成に貢献している。

司会:

東海大学国際学部教授



小貫 大輔

東京大学とハワイ大学の大学院で性教育を学んだ後ブラジルに渡り、計12年間、エイズ予防、自然分娩・母乳育児の推進、子育て支援などのプロジェクトで活動。2006年に帰国して現職。帰国後は、日本に住む外国人の子どもたちの支援に携わり、多国籍の子どもを集める「マルチカルチャー・キャンプ」や「UNESCOユースセミナー」を主催するなどしてきた。日本性教育協会運営委員。

3/26 13:30-16:00

2023

SUN 開場 13:00

国立オリンピック記念青少年総合センター(小ホール)

無料 / 要申し込み(先着300名)

以下のリンク・QRコードより

事前にお申込みください。

<https://onl.bz/e8FLpKG>



お問合せ: cri.unesco@gmail.com (山崎綾音・坂内ひかり)

プログラム: 13:00 開場
13:30 アイスブレイク『《人と繋がる》幸せを取り戻す』 小貫 大輔
14:00 「性を学ぶ、人生をデザインする」 染矢 明日香
14:30 染矢さんとのQ&A
15:15 「今、UNESCOはなぜ性教育に本気なのか」 Babb, Jenelle
16:00 BabbさんとのQ&A
16:30 閉会

主催: ユネスココース
(東海大学スチューデントアチーブメントセンター)
東海大学 国際学部・教養学部・児童教育学部
共催: CRI-Children's Resources International
かながわユネスコスクールネットワーク(KAN)
体験創庫かけはし
協力: NPO 法人ビルコン
協賛: 日本性教育協会(JASE)

会場住所: 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

アクセス: 小田急線

参宮橋駅下車 徒歩約7分

地下鉄千代田線

代々木公園駅下車 徒歩約10分
(代々木公園方面4番出口)

国際女性デー(3/8)

An International Women's Day
国際幸せデー(3/20)
International Day of Happiness

毎年3月8日は国連の定める「国際女性デー」。世界中の国で男女の平等や性と生殖の健康/幸せを考えるイベントが開かれています。そして3月20日は「国際幸せの日」。経済開発や社会・文化の活動を「人が自分らしく生きる幸せ」の視点から見直す機会となっています。

ジェンダーと
セクシュアリティを
理解する
ワークとダンスと
芸術表現の集い

第8回UNESCO ユースセミナー

UNESCO ユースセミナーは、多様な文化的背景を持つ若者たちの集いです。2015年から毎年、関東圏の公立・私立の学校、民族学校、インターナショナルスクールの若者たちを集めて開催されてきました。毎回、若者たちにとって重要なテーマの中から1つを選んで理解を深め、議論し、芸術的に表現する取り組みをしています。今年のテーマは「ジェンダーとセクシュアリティ」です。ユネスコが推進する「包括的セクシュアリティ教育」について一緒に学び、語り合しましょう。

3/27-28

2023

MON

TUE

国立オリンピック記念青少年総合センター

参加費: **5,000円** (食費・施設利用費・保険代を含む)

学校やユースグループ単位、個人で参加を受け付けています(先着100名)。
参加希望の方は以下のメールアドレスより
事前にご連絡ください。

cri.unesco@gmail.com (山崎綾音・坂内ひかり)

プログラム(予定):

Day1

9:00 受付開始
10:00 お互いを知るアイスブレイク
13:00 ジェンダーと
セクシュアリティをめぐる
世界の課題・日本の課題
15:00 体験型ワークショップ
19:30 グループごとのワーク

Day2

8:30 前日のふりかえり
9:00 ビオダンサー いのちの踊り
10:30 芸術表現のアクティビティ
13:30 グループごとのワークの発表
16:30 クロージング

「国際女性デー(3/8)」 「国際幸せデー(3/20)」 イベント



主催: ユネスコユース(東海大学スチューデントアチーブメントセンター)
東海大学 国際学部・教養学部・児童教育学部
共催: CRI-Children's Resources International
かながわユネスコスクールネットワーク(KAN)
体験創庫かけはし
協力: NPO 法人ピルコン
協賛: 日本性教育協会(JASE)

会場住所: 東京都渋谷区代々木神園町3-1

アクセス: 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分

地下鉄千代田線 代々木公園駅下車(代々木公園方面4番出口) 徒歩約10分





SEE 性教育アカデミー2022

SEE (Sexuality Education & Empowerment) 主催
JASE (日本性教育協会) 協賛

生きる力をつけるSSTワークショップ

性と対人関係に課題をもつ当事者の回復を支援するSST

【日 時】2023年3月25日(土)

13時～17時(受付12時40分～)

【場 所】同志社大学今出川キャンパス
良心館 207教室

【参加費】4000円

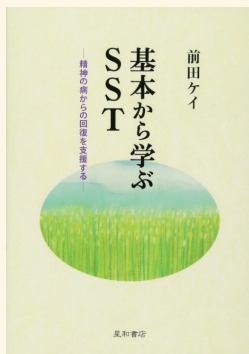
対面研修

定員 15名

SEE性教育アカデミー2022では、支援者自身の価値や態度に気づく体験型ワークショップを行ってきました。

安全な関係性づくりのための対話の手法(サークル)に続き、今回のテーマはSST(ソーシャルスキルトレーニング)です。SSTは、性と対人関係に課題をもつ当事者の回復支援にも有益な援助スキルであるのはもちろん、支援者や教育者に求められる関係性スキルも高めます。

前田ケイ先生から**SSTのスピリット**を学ぶ貴重な機会、ぜひ一緒に！



申し込み方法(要事前予約)

■Peatixでクレジット払い

<https://see-sst.peatix.com>をPeatixで検索し、申し込みと支払いを完了してください。

*本講座は基本的にPeatixでのお申込みを優先させていただいております。口座振り込みをご希望の場合は下記までご連絡下さい。事務局 (kansaishy@gmail.com)

講師プロフィール

前田ケイ

ルーテル学院大学名誉教授、SST普及協会SST認定講師及び顧問。ハワイ大学社会学部社会学科卒業、BA。コロンビア大学ソーシャルワーク大学院修士課程卒業、MS。1983年より心理劇を学ぶ。1988年より東京大学附属病院精神神経科デイホスピタルにおいてSSTの日本への導入に尽力、日本各地での精神科患者のリカバリーのためにSSTが活用されるように取り組まれている。また、更生保護事業でのSSTの実践にも関わり、保護司など、支援者の養成にもあたっている。

藤岡淳子

大阪大学大学院名誉教授、臨床心理士／公認心理師。児童相談所、児童自立支援施設、刑務所などで、非行や犯罪行動のある少年と成人の教育プログラムの実施およびスーパーバイズを行う。一般社団法人もふもふネット代表理事。

スケジュール

12:40-13:00 受付(13:00-13:05主催者挨拶)

13:05-15:40 SST体験ワークショップ(前田)

15:40-15:45 休憩

15:45-16:35 性に係わる支援に活かすSSTについて対談(前田・藤岡)

16:35-17:00 わちあい



▶▶ **3月18日（土曜日）13:00～15:30 オンライン開催** ◀◀

北東北性教育研修セミナー2022

東北、PRIDEの歩む先

東北で2014年に青森レインボーパレードがはじまり、10年。東北各地でパレード歩みが進んできました。各地のパレード／マーチの沿革や様子について、参加経験者のお話をお聞きし、これからの東北に望むことを皆さんとお話しできたらと思います。

方法 オンライン（ZOOMを使用）※詳細は申込者に直接連絡

参加費・問合せ先等

主催：北東北性教育研修セミナー実行委員会 **協賛**：日本性教育協会（JASE）

参加費：北東北（青森・秋田・岩手）在住の方、無料。北東北以外に在住の方1000円（事前振込）

申込み：rc-net@goo.jpまで、名前、連絡先メールアドレス、所属（ある方）を明記の上。

▶▶ **3月25日（土）～26日（日）** ◀◀

GID（性同一性障害）学会 第24回研究大会・総会

ジェンダー治療開化宣言—広がる裾野、その先へ—

【主な演題】 具体的なテーマは、決定次第ホームページに発表（<http://gid24.umin.jp/program.html>）

シンポジウム1「次の時代のGI（Gender Incongruence）医療に求められる精神科医」

シンポジウム2「健康保険適用後のGID診療の現状」

シンポジウム3「各地域・地方におけるGID診療の展開」

一般演題1「形成外科 乳房手術」 一般演題2「ホルモン・泌尿器科」 一般演題3「精神科・現状報告」

一般演題4「形成外科 その他」 一般演題5「当事者・法律・思想」 一般演題6「看護・教育」

一般演題7「社会学・調査」 一般演題8「その他」

【会場】

ふじさんホール・富士吉田市民会館

〒403-0013 山梨県富士吉田市緑ヶ丘2-5-23

【参加費等】

参加資格：本会への参加は、原則として会員および入会手続きを済ませた方。（非会員の方は、大会当日、入会が可能）

参加費：医師・看護職・心理士・教員等資格所有者・研究者10,000円 一般3,000円

【問合せ先】

主催：GID（性同一性障害）学会

大会事務局：山梨大学医学部附属病院 形成外科 〒409-3898 山梨県中央市下河東1110

大会会長：百澤 明（山梨大学医学部附属病院 形成外科 教授）

問合せ先：GID（性同一性障害）学会 第24回研究大会・総会運営事務局 ユアーズ学術企画株式会社内（担当：笹川／山本）

TEL：03-5937-1456 / FAX：03-5937-1457 E-mail: gid24@yours-g.co.jp

すぐ授業に使える

性教育実践資料集 中学校改訂版

〈主な内容〉

- 第1章 中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）
- 第2章 性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）
- 第3章 指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／8つの1年生の指導事例／6つの2年生の指導事例／6つの3年生の指導事例／7つの個別指導事例／5つの組織の指導事例）
- 第4章 参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）

すぐ授業に使える

性教育 実践資料集

中学校改訂版



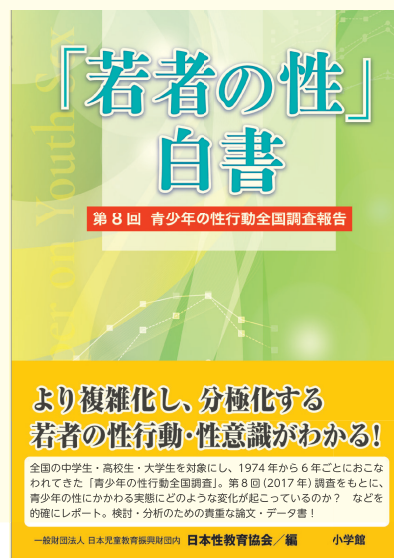
定価 2,200 円（税込） B5 判・224 ページ

「若者の性」白書

第8回 青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

- 序章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～



定価 2,420 円（税込） A 5 判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！